

説 教

聖日礼拝 北浜チャーチ

2021年11月7日(日)

黒田 禎一郎

主 題：「神の忍耐とあわれみ」

—主のいつくしみ—

テキスト：2ペテロの手紙3章8, 9節

はじめに

- ・「**反面教師**」という「ことわざ」があります。それは、反省の材料となるような人や事例を指します。これは中国共産党中央委員会主席の毛沢東により発案された言葉で、中国語の原語では「反面教員」です。日本の似たような諺に「人のふり見て我がふり直せ」(英訳: Learn wisdom by the follies of others) というものがあり、日本でも一般にはその意味で慣用される語句になっています。
- ・では「なぜ」、このような「ことわざ」が誕生したかと言えば、人間は人の背中は見えますが、自分の背中は見えないからです。そう考えますと、私たちは謙虚にならざるを得ませんね。
- ・聖書の生ける神を信じる私たちは、神が選ばれた民イスラエルから学ぶことができます。イスラエルこそ、私たちの**反面教師**であります。彼らが受けた神の祝福、彼らが神の前で行った失敗、その両方から私たちは貴重なレッスンを学ぶことができます。
- ・ところで、私たちはこれまでにない困難な時代、終わりの時代に生きています。今回のコロナという伝染病は、日本はじめ世界を短期間で変えてしまいました。極小のウイルスが世界を変えてしまいました。コロナ禍によって世界のデジタル化は進み、「デジタル・ワーシップ」(SNSを通しての礼拝)、そして「ハイブリッド教会」という言葉も誕生してきました。
- ・ハイブリッドとは低燃費を指します。ハイブリッドカーは通常のガソリン車より、2倍以上の走行距離で走行することができ経済的です。今では日本車の多くがハイブリッド車となっています。
- ・同じように、これまで教会が払ってきた多くの働きも、デジタル化によって高速となり簡素化され、今までの何倍もの働きをすることが可能となりました。情報は驚くべきスピードで世界に流れ(フェイクニュース含め)、情報伝達が高速となり、かつ簡素化されてきました。
- ・そのような社会で信の仰生活は、これまで以上のきびしさが増してきました。私たち神を信じる聖徒は、どう生きるべきでしょうか。そこで今日は、大切

な点を2点考えてみたいと思います。

大切なポイント

1. 私たちが見つめるべきこと

3:8 しかし、愛する人たち、あなたがたはこの一つのことを見落としてはいけません。主の御前では、一日は千年のようであり、千年は一日のようです。

3:9 主は、ある人たちが遅れていると誤解しているように、約束したことを遅らせているのではなく、あなたがたに対して忍耐しておられるのです。だれも滅びることがなく、すべての人が悔い改めに進むことを望んでおられるのです。

1) 反対者の視点

・「終わりの日」の教えについて、反対者たちはこう言いました。

3:4 こう言います。「彼の来臨の約束はどこにあるのか。父たちが眠りについた後も、すべてが創造のはじめからのままではないか。」

・終わりの日が迫っていると語ったペテロや他の聖徒たちに対して、「その日は、いつ訪れるのか」というものでした。この問いは、今の私たちにも問われています。

2) 神の視点

・そこでペテロは旧約聖書の詩篇のことばを引用しました。詩篇 90 篇

90:4 まことにあなたの目には千年も昨日のように過ぎ去り夜回りのひと時ほどです。

・この詩篇 90 篇全体は、神の永遠性と人間の有限性について歌っています。神は永遠から永遠まで存在されるお方で、それに比べれば、人間は本当に一瞬のうちに消えていくようなものです。今年も、多くの人々が地上の生涯を終えて召されていきました。人間はどんな立派な人でも限界があります（有限）。

・しかし、それにも関わらず、人間は永遠である神に対して平気で言うのです。

3:4 こう言います。「彼の来臨の約束はどこにあるのか。父たちが眠りについた後も、すべてが創造のはじめからのままではないか。」

・永遠なる神に向かい、たちまち消えてしまうような者が、このように言っているのです。人間とは本当に傲慢なものです。人間は限られた知識に基づいて、物事を測ろうとします。私たちは知っているべきことさえ、まだ知らないものです。それは、次の聖句です。

3:8 主の御前では、一日は千年のようであり、千年は一日のようです。

90:4 まことにあなたの目には千年も昨日のように過ぎ去り夜回りのひと時ほどです。 詩篇

- ・ 詩篇 90 篇は、「神の人モーセの祈り」と書かれています。彼はこう歌いました。詩篇 90 篇

90:12 どうか教えてください。自分の日を数えることを。そうして私たちに知恵の心を得させてください。

- ・ 私たちは神の摂理、神が見ておられる「時」を、私たちの尺度で測ることはできません。不可能であります。ですから、イエスは言われました。

マタイ 24 章

24:36 ただし、その日、その時がいつなのかは、だれも知りません。天の御使いたちも知りません。ただ父だけが知っておられます。

使徒の働き 1 章

1:7 イエスは彼らに言われた。「いつとか、どんな時とかいうことは、あなたがたの知るところではありません。それは、父がご自分の権威をもって定めておられることです。

- ・ 私たちはその時を知りたいと願いますが、残念ながら、それは神の知恵であります。神の知恵はとても深いものです。それでは、私たちは何を見るべきでしょうか？それは神のみことばです。そこで覚えなければならないことがあります。

2. 忘れてはいけないこと

1) 天の父なる神の願い

- ・ ペテロは当時の人々の視点に触れながら、正しく見つめるべき神の御心を、説き明かしました。

3:9 主は、ある人たちが遅れていると思っっているように、約束したことを遅らせているのではなく、あなたがたに対して忍耐しておられるのです。だれも滅びることがなく、すべての人が悔い改めに進むことを望んでおられるのです。

- ・ ここで注目していただきたいことは、「主は、ある人たちが遅れていると思っっているように、約束したことを遅らせているのではなく、あなたがたに対して忍耐しておられるのです。」という言葉です。
- ・ 当時の反対者たちは、神は約束に対して無力で、無関心であり、物事の進め方や反応が遅いと主張していました。しかしペテロの視点は違っていました。それは、人が遅いと考えている背後には、主の深い愛と忍耐があるということです。

- ・神は世界を創造されたとき、ご自身のかたちに似せて造られました。すなわち、人は神のかたちに似た尊い存在であります。その尊い存在に対して、神は無関心であるはずはありません。また計画を遅くするという無責任な態度を取られる方でもありません。
- ・神は責任を痛感され、関心を集中しておられます。ですから、ご自身のさばきの手を振り降ろすことができずにおられるのです。神は愛に満ちたお方です。一人として滅びることは願っておられません。そこで神は忍耐をもって語りかけてこられました。

2) 神の忍耐

- ・皆さん、ソドムとゴモラの町の人々を思い出してください。神は彼らに突然、さばきの手を下されたのではありませんでした。アブラハムは神に次のように尋ねました。 創世記18章
 - 18:23 アブラハムは近づいて言った。「あなたは本当に、正しい者を悪い者とともに滅ぼし尽くされるのですか。」
 - 18:24 もしかすると、その町の中に正しい者が五十人いるかもしれません。あなたは本当に彼らを滅ぼし尽くされるのですか。その中にいる五十人の正しい者のために、その町をお赦しにならないのですか。」
 - 18:25 正しい者を悪い者とともに殺し、そのため正しい者と悪い者が同じようになる、というようなことを、あなたがなさることは絶対にありません。そんなことは絶対にあり得ないことです。全地をさばくお方は、公正を行うべきではありませんか。」
 - 18:26 【主】は言われた。「もしソドムで、わたしが正しい者を五十人、町の中に見つけたら、その人たちのゆえにその町のすべてを赦そう。」
- ・アブラハムはさらに、正しい人が40人、30人、20人いればと、神に必死に食い下がりました。そしてさらにこう尋ねました。
 - 18:32 また彼は言った。「わが主よ。どうかお怒りにならないで、もう一度だけ私に言わせてください。もしかすると、そこに見つかるのは十人かもしれない。」すると言われた。「滅ぼしはしない。その十人のゆえに。」
- ・神はご自身の約束に対して、のろのろしておられるのではありません。ぐずぐずしておられるのでもありません。いいえ。じっと忍耐をもって、私たちの愚かさ、私たちの罪深さ、私たちの悟りの鈍さにつき合っておられるのです。ここに神の忍耐があります。
- ・一人でも多く、願わくば一人でも多くの方が自分の過ちに気づき、十字架の福音によって救いにあずかるよう篤く願っておられるのです。
- ・ここで、私たちが忘れていけないことは、神は必ずご自身の時に約束を果た

されることです。神は永遠にさばきを猶予されているわけではありません。神はやがて、約束を必ず果たされます。

3) 神のいつくしみ

- 神は約束を必ず果たされます。ですから、私たちは今を大切に生きなければなりません。みことばは次のように語っています。

2:4 それとも、神のいつくしみ深さがあなたを悔い改めに導くことも知らないで、その豊かないつくしみと忍耐と寛容を軽んじているのですか。

ローマ

神の忍耐といつくしみ、それは私たちを悔い改めに導くために与えられた恵みです。私たちはそれを軽んじてはなりません。

- 神は今も、私たちが「そのままではいけない」と気づく時を、じっと待っておられます。繰り返し、繰り返し、失敗する私たちを、また神に背を向けつづける私たちが、本当に悔い改めることを望んでおられます。私たちが罪ある生活から離れ、神の救いにとどまり、神と歩みたいと決心することを、忍耐をもって待ち続けておられます。それは神のあわれみです。
- ペテロの時代、ある人々はイエスが再び来られると言うが、いったいいつになるのか。イエスの約束は本当なのか。と疑問視していました。
- そこでペテロは、人の考えと神の考えとは大きく違うと語りました。結論から言って、イエスの来臨の時は誰も知りません。
- では、何が大切でしょうか？ → それは主イエスの来臨前の今、どのように生きるかです。主イエスが来臨される時は、終わりの時、さばきの時です。その時、神のさばきから逃れることができる人は誰もいません。ですから、今の貴重な時をどのように生きるかが大切です。いかがでしょうか……。私たちは心静めて、神の前に出ようではありませんか。
- 神の忍耐といつくしみを、決して無にしてはいけません。

ま と め

主 題：「神の忍耐とあわれみ」

—主のいつくしみ—

- 主は今日も、私たちにみことばを通してお語りくださいました。私たちは何を覚えるべきでしょうか。それは見落としてはならないことです。今日の聖句をお読みします。
- 3:8 しかし、愛する人たち、あなたがたはこの一つのことを見落としてはいけません。主の御前では、一日は千年のようであり、千年は一日のよう

す。

3:9 主は、ある人たちが遅れていると知っているように、約束したことを遅らせているのではなく、あなたがたに対して忍耐しておられるのです。だれも滅びることがなく、すべての人が悔い改めに進むことを望んでおられるのです。

*God bless you !